

農産物主要品目の平成 25 年産生産実績

【土地利用型作物】

米	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	34,600	34,200	34,200	34,400 (101%)	33,600
10a 収量 (kg/10a)	612	604	610	632 (104%)	623
生産量 (t)	211,800	206,600	208,600	217,400 (104%)	209,328

【25 年産解説】

作付面積は、生産数量目標に対し 302ha 超過したため、前年比101%となった。

生産量は、全もみ数が平年並みに確保され、登熟がやや良好となったことから作柄指数は 101(632kg/10a)の平年並となり、前年比104%となった。

価格は、全国的な豊作基調のため過剰在庫となったことから、前年までの品薄感による高値から一転し、値下がりをした。

麦	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,410	2,520	2,570	2,560 (100%)	2,850
10a 収量 (kg/10a)	303	337	386	298 (77%)	410
生産量 (t)	7,310	8,460	9,930	7,630 (77%)	11,700

【25 年産解説】

作付面積は、昨年とほぼ同等となった。

生産量は、播種後の低温による越冬前の生育量不足に加え、春先の低温から穂数不足となり、大麦、小麦とも減収となり、前年比77%となった。

価格は前年とほぼ同等であった。

大豆	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,370	2,360	2,200	2,090 (95%)	2,500
10a 収量 (kg/10a)	145	167	161	163 (101%)	200
生産量 (t)	3,440	3,940	3,540	3,410 (96%)	5,000

【25 年産解説】

作付面積は、難防除雑草等の影響により前年比95%とやや減少した。

生産量は播種以降順調に生育したことから、単収は平年並みであったが、作付面積の減少から前年比96%となった。

価格は、全国的な作付面積の減少と、台風等による風水害の影響により収穫量が減少したことから、国産大豆の品薄感により高騰した。

そば	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,960	3,630	3,970	3,890 (98%)	4,000
10a 収量 (kg/10a)	75	66	85	69 (81%)	90
生産量 (t)	2,220	2,400	3,370	2,680 (80%)	3,600

【25 年産解説】

作付面積は、前年産の価格下落の影響等から、前年比98%となった。

生産量は9月上～中旬の台風等による倒伏の多発や、収穫期の降雨による作業の遅れなどから減収となり前年比80%となった。

価格は、全国的に不作であったものの、作付面積が大幅に増加した前年並みであったことから、国産そばの収穫量は概ね平年並みに確保されたため、安値となった前年とほぼ同等となった。

【果 樹】

りんご	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	8,180	8,120	8,060	7,980 (99%)	7,810
10a 収量 (kg/10a)	1,771	1,723	2,057	1,946 (95%)	2,074
生産量 (t)	144,900	139,900	165,800	155,300 (94%)	162,000

【25 年産解説】

作付面積は、前年をわずかに下回った。

生産量は、4月の凍霜害の影響から、下枝を中心に収穫量が少ない園地があったが、全県的には人工授粉の徹底等により、概ね着果量は確保出来た。果実肥大は、良好であった前年に比べ、少雨や摘果作業の遅れ等により劣り、平年よりもやや小玉傾向であった。

価格は、このため前年とほぼ同等となった。

ぶどう	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,440	2,440	2,430	2,430 (100%)	2,450
10a 収量 (kg/10a)	980	959	1,247	1,103 (88%)	1,094
生産量 (t)	23,900	23,400	30,300	26,800 (88%)	26,800

【25 年産解説】

作付面積は、生産者高齢化等による減少の一方、新品種の導入による新植、改植が進み、前年並みとなった。

生産量は、着房数は確保できたものの、少雨の影響で、巨峰やシャインマスカットを中心に前年より小房傾向であったため、前年をかなり下回った。

価格は、品薄傾向のため、前年をかなり上回った。

なし	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	1,030	1,000	978	948 (97%)	920
10a 収量 (kg/10a)	1,825	1,966	2,193	1,624 (74%)	2,011
生産量 (t)	18,800	19,660	21,450	15,400 (72%)	18,500

【25年産解説】
 作付面積は、栽培者の高齢化等により、前年をやや下回った。
 生産量は、4月の凍霜害により、南信地域を中心に胚珠が褐変するなどの大きな被害を受けたため、前年を大幅に下回った。
 価格は、全国的な品薄傾向から前年をやや上回った。

もも	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	1,200	1,180	1,170	1,150 (98%)	1,110
10a 収量 (kg/10a)	1,400	1,441	1,581	1,339 (85%)	1,604
生産量 (t)	16,800	17,000	18,500	15,400 (83%)	17,800

【25年産解説】
 作付面積は、ほぼ前年並みとなった。
 生産量は、4月の凍霜害により下枝を中心に結果不良となったこと、早生品種を中心に、少雨による肥大不足がみられ、前年を大幅に下回った。
 価格は、品薄傾向から前年をかなり上回った。

【野菜】

レタス	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	5,790	5,770	5,720	5,810 (102%)	5,910
10a 収量 (kg/10a)	2,961	3,029	3,400	3,434 (101%)	3,146
生産量 (t)	171,400	174,800	194,600	199,200 (102%)	187,000

【25年産解説】
 作付面積は、前年をわずかに上回った。
 生産量は、春先の低温、夏場の高温干ばつ、台風など影響も見られたが、全般的に作柄が安定していたため前年をわずかに上回った。
 価格は、先行産地からの本県へのルーがスムーズに行われ、作柄が安定していたことにより、出荷期間を通して高騰も下落もなく堅調に推移し、安値だった前年を上回った。

はくさい	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,750	2,770	2,770	2,650 (96%)	2,500
10a 収量 (kg/10a)	7,452	7,686	8,450	8,285 (98%)	7,400
生産量 (t)	202,700	212,900	234,100	215,400 (92%)	185,000

【25 年産解説】

作付面積は、生産者及び県、市町村、出荷団体による産地をあげての夏はくさい適正生産の取組(期間:7月～8月10日)により、前年比べてやや減少した。

生産量は、夏はくさい適正生産の取組みや夏期の干ばつなどの影響により前年を下回った。

価格は、先行産地からの本県へのルーがスムーズであったこと、夏はくさい適正生産の取組みの成果により、近年になく安定して推移し、安値だった前年を上回った。

キャベツ	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	1,470	1,460	1,470	1,500 (102%)	1,600
10a 収量 (kg/10a)	4,033	4,363	4,610	4,223 (92%)	4,500
生産量 (t)	59,300	63,700	67,700	62,500 (92%)	72,000

【25 年産解説】

作付面積は、前年をわずかに上回った。

生産量は、単収が豊作だった前年と比べるとかなり下回り平年並みとなったため、前年を下回った。

価格は、国内各産地からの市場への出荷の集中が無く、作柄も平年並みとなったため出荷期間を通して安定して推移し、安値だった前年を上回った。

ブロッコリー	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	815	761	772	785 (102%)	850
10a 収量 (kg/10a)	930	901	934	994 (106%)	953
生産量 (t)	7,050	6,860	7,210	7,800 (108%)	8,100

【25 年産解説】

作付面積は、夏はくさい産地での導入が進んだこともあり、前年をわずかに上回った。

生産量は、面積の増加と、夏期の品質低下が比較的少なく作柄が安定していたため、前年をかなり上回った。

価格は、葉野菜類の市場での販売環境が良好であったことから堅調に推移し、前年を上回った。

アスパラガス	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	1,300	1,240	1,140	1,130 (99%)	1,400
10a 収量 (kg/10a)	248	246	227	283 (125%)	430
生産量 (t)	3,450	3,050	2,590	3,200 (124%)	5,600

【25年産解説】
 作付面積は、高齢化と病害等の発生により前年をわずかに下回った。
 生産量は、前年から各地で取組みの始まった茎枯病対策の効果や新植されたほ場も増えたことから、前年を大幅に上回った。
 価格は、市場での需給バランスが取れていたことから、本県出荷期間を通して堅調に推移した。

トマト	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	438	418	399	385 (97%)	450
10a 収量 (kg/10a)	4,940	4,856	5,690	5,455 (96%)	6,222
生産量 (t)	22,200	20,300	22,700	21,000 (96%)	28,000

【25年産解説】
 作付面積は、ジュース用トマトで前年を上回ったが、生食用トマトは減少した。
 生産量は、単収が豊作だった前年を下回り平年並みとなったため、前年を下回った。
 価格は、市場での需給バランスが取れていたことから堅調に推移し、前年を上回った。

きゅうり	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	425	410	411	405 (99%)	430
10a 収量 (kg/10a)	3,829	3,902	4,060	3,827 (94%)	4,418
生産量 (t)	16,200	16,000	16,700	15,500 (93%)	19,000

【25年産解説】
 作付面積は、前年をわずかに下回った。
 生産量は、単収が平年並みとなったため、豊作だった前年をやや下回った。
 価格は、全国的に出荷量が平年並みであったため、前年を上回った。

【花 き】

キク	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	138	136	133	130 (98%)	111
10a 収量 (本/10a)	26, 304	26, 397	27, 068	27, 615 (102%)	27, 297
生産量 (千本)	36, 300	35, 900	36, 000	35, 900 (98%)	30, 300

【25 年産解説】

作付面積は、前年をわずかに下回った。

生産量は、作付面積が減少したため前年をわずかに下回った。

価格は、7～8月の集中出荷によりキク類全般に単価が下落したが、他の時期は堅調に推移したため、前年をわずかに下回った。

カーネーション	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	96	96	93	92 (99%)	88
10a 収量 (本/10a)	64, 760	64, 062	63, 215	60, 307 (95%)	68, 182
生産量 (千本)	62, 300	61, 500	58, 600	55, 200 (94%)	60, 000

【25 年産解説】

作付面積は、前年をわずかに下回った。

生産量は、夏秋期の高温による品質劣化等から切花ロスが大きくなり、前年をかなり下回った。

価格は、出荷期間を通して谷がなく堅調に推移し、前年を大きく上回った。

リンドウ	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	39	37	37	37 (100%)	38
10a 収量 (本/10a)	19, 115	19, 243	16, 694	15, 176 (91%)	20, 263
生産量 (千本)	7, 493	7, 120	6, 210	5, 600 (90%)	7, 700

【25 年産解説】

作付面積は、前年並となった

生産量は、近年の切り花年限の短化や夏秋期の高温による切花ロスにより、前年をかなり下回った。

価格は、出荷期間を通して安値基調となり、前年並みとなった。

トルコギキョウ	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	51	50	51	50 (98%)	58
10a 収量 (本/10a)	26, 336	26, 400	27, 668	26, 388 (95%)	25, 345
生産量 (千本)	13, 300	13, 200	14, 000	13, 300 (95%)	14, 700

【25 年産解説】

作付面積は、前年をわずかに下回った。

生産量は、夏秋期の高温による品質劣化等から切花ロスが大きくなり、前年をやや下回った。

価格は、出荷期間を通して谷がなく堅調に推移し、前年を大きく上回った。

アルストロメリア	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	25	26	27	27 (100%)	28
10a 収量 (本/10a)	72, 510	73, 077	75, 373	74, 444 (99%)	78, 571
生産量 (千本)	18, 200	19, 000	20, 200	20, 100 (100%)	22, 000

【25 年産解説】

作付面積は、前年並みとなった。

生産量は、前年並みとなった。

価格は、出荷期間を通して谷がなく堅調に推移し、前年を大きく上回った。

鉢花類	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
作付面積 (ha)	87	87	85	86 (101%)	77
10a 収量 (鉢/10a)	24, 149	25, 207	25, 426	24, 582 (97%)	24, 286
生産量 (千鉢)	21, 010	21, 930	21, 770	21, 190 (97%)	18, 700

【25 年産解説】

作付面積は、前年をわずかに上回った。

生産量は、シクラアメン、シンビジウムを中心とした小鉢化の進行が鈍化したことと、夏秋期の高温による生育ロスにより、前年をやや下回った。

価格は、シクラアメン、シンビジウムともに期間を通して安値基調となり、前年をやや下回った。

【きのこ】

えのきたけ	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
生産量 (t)	86,070	89,522	85,690	83,058 (97%)	94,426

【25年産解説】

生産量は、夏場の不需要期における適正生産の取組みにより前年をやや下回った。
 価格は、夏場の適正生産の取組みの成果や冬野菜の品薄による価格高騰もあり、通年で前年をやや上回った。

ぶなしめじ	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
生産量 (t)	47,868	53,333	50,589	46,993 (93%)	55,746

【25年産解説】

生産量は、夏場の不需要期における適正生産の取組みにより前年をかなり下回った。
 価格は、夏場の適正生産の取組みの成果や冬野菜の品薄による価格高騰もあり、通年で前年をかなり大きく上回った。

【畜産】

乳用牛	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
頭数	19,800	19,500	18,700	18,300 (98%)	19,200
生産量 (t)	116,345	111,568	110,550	108,512 (98%)	117,400

【25年産解説】

飼養頭数は、乳用牛飼養戸数が5.4%減少したが、規模拡大等により2.1%の減少にとどまった。生乳生産量は、経産牛頭数の減少により、1.8%の減少となった。生乳取引価格は、生乳生産量の逼迫などの状況を受け、飲用乳価が下期から5円値上げされた。

肉用牛	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
頭数	29,500	28,500	26,900	26,400 (98%)	28,500
生産量 (t)	7,064	6,860	6,475	6,354 (98%)	6,552

【25年産解説】

飼養頭数及び生産量は、配合飼料の高止まりや肥育素牛の高騰等により飼養戸数が減少したため、前年をわずかに下回った。
 一方、枝肉単価は、円安等の影響により輸入量が抑えられていることや全国的な生産量の減少に伴うと畜頭数の減少により下位等級を中心に上昇した。

豚	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
頭数	75,000	77,400	80,200	73,800 (92%)	75,900
生産量 (t)	11,518	11,578	12,314	11,903 (97%)	11,530

【25年産解説】

飼養頭数及び生産量は、配合飼料価格の高止まりや農家戸数の減少等により漸減傾向にある。
枝肉単価は、円安や海外価格高騰等により輸入量が減少し、国産への代替需要が増加したことから、堅調に推移した。

鶏	H22 (基準年)	H23 実績	H24 実績	H25 実績 (H25/H24)	H29 目標年
羽数 (千羽)	1,403	1,448	1,751	1,525 (87%)	1,375
生産量 (t)	15,700	14,943	15,525	14,645 (94%)	14,017

【25年産解説】

採卵鶏では、夏場の記録的猛暑により産卵率が低下し生産量が減少した。一方、鶏卵価格は若雌鶏の減少、成鶏淘汰事業参加羽数の増加など複合的な要因が重なり成鶏羽数が抑制されたため、秋以降、平年に比べて高値で推移した。また、ブロイラーでは、豚肉相場の上昇による代替肉としての需要と、コンビニ惣菜原料としての需要の伸びにより、鶏肉価格は好調に推移した。